

令和3年度実施卒業生調査について（報告）

調査目的	・ 本学卒業生の在学中の学習や諸経験が卒業後のキャリアや生活とどのような関係にあるのかを検証する。 ・ 本学での学修や教育が、DPに定められた資質・能力の修得に資するものであったか、身に付けた資質・能力が社会でどのように役立っているかを卒業生の評価により明らかにする。 ・ 大学での取り組みをステークホルダーに分かりやすく説明できるよう、調査結果を活かした情報公開に役立てる。 ・ その他教育活動等の改善に資する検討資料として活用する。
調査対象	平成25年度 現代生活学部卒業生 427名 平成27年度 現代生活学部卒業生 498名 平成29年度 現代生活学部卒業生 472名 ※翌9月卒業生を含む
回答実績	有効回答数：257人 有効回答率：21.4%
調査期間	2021年9月22日(水)～10月17日(日)
調査方法	官製はがきで依頼し、Web上のアンケートフォームにて回答
調査項目	・ 卒業生プロフィール 卒業学科、卒業年度、現在の勤務先など ・ 社会で求められる資質・能力について DPの検証、各資質・能力が大学卒業時にどの程度身につけていたか ・ 大学での学び、生活について 在学中の経験と満足度、大学での経験がどの程度役立っているか ・ その他 大学の満足度、本学推奨度、インタビュー調査の可否など
調査結果 (総括)	「各能力の修得度」と様々な要素の相関はどの項目も軒並み高い傾向がみられるが、とりわけ「成長実感」との相関は一段と高い傾向が見受けられ、改めて成長実感を促す事の重要性が示された。 今後の示唆として、調査結果にみられるように「成長実感」＝「できないことができるようになった」と認識する経験は大切なテーマであると同時に、自分が今どの程度成長しているのか「可視化」し、フィードバックする機会を在学生に与えていくことも重要である。 ループリック、アセスメントによるリフレクションの機会の提供で学生の成長を促し、その成果の可視化が、結果的に認証評価等でのエビデンスづくりにもつながると考えられる。